

# 【近畿農政局長賞：単位収量の部】

# (株)ばんば農産(滋賀県彦根市)

品種	作付面積	単収	地域の単収との差(地域の平均単収)
べこあおば	約26ha	684kg/10a	159kg/10a(525kg/10a) ※作況補正後の地域の平均単収



**【経営概況】**  
 ○ 本人、従業員1名で経営する専業農家。米の卸売業も行っている。  
 ○ 飼料用米専作で、経営面積約26ha

**【作付品目】**  
 ・べこあおば

**【取組のきっかけ】**  
 ○ 主食用米の価格低下を受け、収益の安定を図るため令和4年から飼料用米の栽培に取り組んだ。令和5年からは、飼料用米のみの作付けとなっている。  
 ○ 品種選定は、農林水産省のHP等で飼料用米の単収を参考に、耐倒伏性、耐肥性があり、地域で安定した種子供給のある「べこあおば」とした。



**【取組概要】**  
 ○ 農地の集積率を高めるため、農地中間管理機構を介して近辺のほ場を借入れている。当該地域の農地集積率は98%と非常に高くなっている。  
 ○ 元肥は、田植機による側条施肥でNPK14-14-14を50kg/10aを施用。追肥は安価な単肥(尿素)を流し込み施肥で4回を行うことで、コスト低減と省力化を図っている。  
 ○ BS資材(バイオスティミュラント)の表面散布により、栄養素の吸収促進や環境ストレス耐性の付与を図り、増収・品質向上に寄与するほか、肥料や農薬の削減にもつながり環境負荷低減にも貢献している。  
 ○ 省力化の取組として密苗移植技術や育苗箱施用による防除のほか作期分散を行っている。  
 ○ 収穫の早い一部ほ場(令和6年は4ha)において、農研機構の指導のもと、再生二期作に取り組み増収を図っている。  
 ○ 5年から農業アプリケーション「xarvio」を導入し、肥培管理のデジタル化、ドローンによる農薬散布(委託)など、スマート農業の活用により作業を効率化させている。  
 ○ 近江牛の生産が盛んな近隣市町の肥育農家と飼料メーカーを介した牛糞たい肥と稲わら交換の耕畜連携に取り組んでいる。